

第2学年 英語科学習指導案

授業者 高杉 廣張

1. 単元名

Yamanashi Travel Guide 山梨の観光案内をしよう

<NEW HORIZON English Course 2 Multi Plus 3 わたしの町の発展学習>

2. 単元について

(1) 生徒観

2学年における英語学習も半ばにさしかかり、生徒たちが英語で表現できる世界は格段に広がりを見せつつある。2年生になってからは、過去進行形、未来表現 (be going to-)、不定詞 (副詞的用法と名詞的用法) を学習し、今後は、助動詞 (will や must、should) や接続詞 (if、when、that、because) を学習していくことになる。

多くのことを表現できることに期待を持つ生徒がいる一方で、学習内容が理解できず、目標とする“なりたい自分”に近づけないことに、焦りや不安、あきらめを感じている生徒が出始めているのも事実である。アンケートの結果や日頃の授業に対する取り組みの様子を1年時のものと比較し、生徒の現状、実態を以下に述べてみたいと思う。

まず、「読むこと」とくに「音読」に関しては、個人差が見られるようになってきた。大きな声で間違いを恐れずに声を出す生徒がいる反面、近くに寄ってもつぶやきしか聞こえてこない生徒もいる。教師の後に続いて読む声などは1年生の時に比べ、徐々に小さくなってきている。ペアを作ったの読み合いや、時間内でできるだけ多く読むといったゲーム的な活動においては声が大きくなるが、一時的なものに過ぎず、ただ単に繰り返し本文を読むだけでは、生徒たちの知的好奇心が満たされているとは言えない。

次に「話すこと」についてだが、声の大きさという点においては多くの生徒が目標をクリアできていると思われる。ここで言う目標とは、「相手に内容が伝わる声の大きさ」のことであるが、ALT とのインタビュー活動の評価を見ても、声の大きさは概ねA評価の生徒が多い。しかし、話すスピードや明瞭さの点では課題が残る。今年度の始めに Show & Tell を行ったのだが、自分の順番を早く終えたいという気持ちから、速く読んで終わらせてしまおうとする様子が見られた。また、英語が得意であっても、書いてあることをスラスラと読むことばかりに意識が向かい、聞き手には十分に伝わらないという様子も見られた。そこには、自身のなさや思春期特有の照れ、恥ずかしさなどさまざまな要因が考えられるが、1年時とは異なる課題が表出していることに対して、心理面でのレディネスづくりをこれまで以上に充実させていかなければならないと考える。

「聞くこと」についてだが、聞く力が足りないと感じている生徒が多いようである。リスニングテストなどを行ったときに「読まれるスピードが速くて、何を言われているか分からない。」という生徒の嘆きをよく耳にする。まとまった文の内容を理解するにはある程度の語彙力が必要であるが、聞き取れない原因は違うところにあるように思われる。英語特有の音や、その音と音とのつながり、また、それによる音の消失、強弱、抑揚などに慣れていないため、知っているはずの語が聞き取れないという状態になっていると考える。限られた時間で、英語の音に触れる時間を増やすことは困難な状態ではあるが、そのような機会をできる限り多くつくっていききたい。音を聞きとる力は、「英語らしく話すこと」の上達にも結びつくものであり、またしっかりと英語の音で「話すこと」が「聞くこと」のさらなるレベルアップにつながるものであると考える。

最後に「書くこと」についてであるが、あるトピックについて書く3文英作や、夏休み中には日記などにも取り組んできた。また、新しい文法や表現を学習した後は、それを使って話すだけでなく、書く活動をできる限り仕組むようにしてきた。自分自身の言葉で、他の生徒とは違うオリジナルのものを作ろうとする生徒も多く、書こうとする意欲は高いと感じる。しかし、自分の思いや考えを正しく伝えるために欠かせない文構造の理解や語彙をさらに増やすことなどが課題であると思う。また、状況に応じて語形を変化させたり、語を選択したりする力もつけていきたい。意欲が高いだけに、書きたいことが書けないという思いが、「書くこと」への苦手意識につながっているように思われる。いままでに扱ってきた文法や文構造に関しての知識をもう一度活用する活動を行い、既習の知識を有機的につなげていく活動が必要であると思われる。

(2) 単元観および指導観

本単元では、「山梨ではどこへいったらよいか？何をしたらよいか？」という海外からの旅行者の質問に対し、観光案内所の職員として自分のおすすめを紹介するというやりとりをロールプレイさせたい。案内役はおすすめのプランを考え、既習表現を活用しながら説明し、旅行者はいくつかの案内所を回ってプランを聞き取り、一番良いものを選んでいく。

本単元で扱う言語材料は、**There is / are** ～構文である。身の回りにある施設や場所、ものを説明する方法として、今回の活動の中でも積極的に活用させたい。また、別の単元での学習事項にはなるが、**when** や **that**、**because** といった接続詞にも触れたい。それらを学習することによって、これまで単文によって構成されていた文章が、よりまとまりをもって表現できるようになる。自分の考えを伝える **I think (that)** ～ の構文や、理由を付け足す **because** 節などは、自分のおすすめの場所や活動を伝える文章の中でも活用できると思われる。

今回本単元を扱ったのは、今までに習ってきた不定詞や未来表現、助動詞などを統合的に使用する機会としたという思いからであり、文法や文構造の定着を図るトレーニング的な活動では感じられなかった表現の広がりを実感させることで、知らないことを知る楽しさ、習ったことを使える喜びなどを味わわせ、さらなる表現意欲につなげていきたいと考えている。

教科書は、自分の住む町の紹介を題材にしているが、本単元では『山梨の観光案内をしよう。』という課題を設定した。生徒自身の個人的な経験や体験とかかわることはもちろん、1年次に行ったテーマ別班別自主見学や社会科の授業なども結びつき、『表現してみよう』という意欲を引き出すことができると考えたからである。山梨県を観光で訪れる海外の人は多く（統計では、北海道や奈良などに続き、ランキングでは10位前後）、英語で山梨を紹介するようなことも今後あり得る話であり、そういったことも活動の動機付けとなるものとする。私たちの住む県について深く知る機会でもあり、自分のおすすめの場所や活動をどのように説明すれば良いのかを学習する良い機会となると考える。

生徒が作る英文はバラエティに富んだ内容になることが予想される。『伝えたいこと』を表現することができたと感じ取らせるために、教師は周到な準備と生徒がつまずくであろういくつかのケースをあらかじめ想定し、適宜、指導と支援を施していくが必要になるであろう。

そこで、次の3点を本単元における重要な課題ととらえ指導過程や学習過程の中に取り入れ、本校英語科の研究とのかかわりについても考えていきたい。

①帯プログラムを有効に活用すること

次のような指導と支援を適宜施していくことで、「伝えたいこと」を表現することができた実感を味わわせたい。

1) 既習事項の十分な定着と活用

新たな言語材料となる **There is / are** ～の文構造の定着は、本単元にとって大きな目標である。しかし今回は、それだけではなく2年生になって習ってきた不定詞や未来表現、助動詞、接続詞などを活用した対話文づくりができることを目指したい。そのため、事前の帯プログラムで行う「**Plus One Q&A**」や「**Two-minute-talking**」などを有効に活用し、文作りのヒントを与えたい。

2年生になってからは、文法や文構造の定着を図るトレーニング的な活動を行うことが多かった。しかし今回は、観光案内という場面を与え、今までのトレーニングで身につけてきたものを統合的に使う機会としたい。そうすることで、既習事項がより実際場面に即したものへと変化していくと考える。様々な文法や文構造を短期間のうちに学習してきているので、まとめて振り返る機会ともなる。

2) 語彙の習得

自己表現活動を行う上で最も障害となるのが語彙の少なさである。昨年度、年間を通してできるだけ多くの **BINGO** を行ってきたが、活用できる語彙力として定着させるには、さらなる繰り返しの提示が重要になると思われる。相手に伝えたいことを具体的にすればするほど、「何と言ったら良いのか。」という疑問は増えてくるはずであるので、生徒の興味・関心をひく題材であればあるほど、教師が忙しく動き回らなければならないという状況は十分に考えられ、その要求すべてに教師が答えていくことには無理があると思われる。生徒が表現したいことは千差万別であり、それら全てを **BINGO** で網羅することこそ不可能であるが、『山梨の観光案内』を表現する上で必要になるであろうと思われる語彙や表現等を帯プログラムの「**BINGO**」などで繰り返し用い、実際の英文づくりに生かせるようにしていきたい。

②伝える内容のイメージングと伝える相手を意識すること

①の1)、2)を通して既習事項の定着や語彙の習得を十分に行ったとしても、それだけでは本単元の課題・目標に迫ることは難しい。なぜなら、“知識・技能面のレディネス”に加え、“心理面でのレディネス”を生徒の内面に形成することも必要だからである。

そこで、Modelを示して活動のゴールをイメージさせたり、活動内容を理解させたり、また、Brain Stormingで山梨について調べてみる時間を十分にとり、数ある山梨の観光スポットの中から、「おすすめ」として自分が伝える内容をイメージさせることを授業に組み入れたい。そのような活動を仕組むことで、生徒の書こうとする意欲とその作品に期待する効果が認められることはこれまでの研究で実証されており、英文を書き始める前段階の活動として、伝える内容をイメージさせるようなやりとりを学習過程に組み入れることは“心理面でのレディネスづくり”と生徒が実際に作る英文の双方に有効に働くものと考えられる。

今回は、Show & Tellのような、発表して終わりというような一方的な活動とは異なり、聞き手の要求に応じて話し手が情報を与えるという対話形式の活動となる。最終的に聞き手は複数のプランの中から一番良いものを選ぶため、ただ発表されるものを漫然と聞いていればよいわけではない。また、話し手も伝えたい内容をしっかりと聞き手に伝えなければならないので、早口でまくしたてるような話し方では、今回の活動の目標達成には近づけないであろう。前もって書いておいた自分の leaflet を活用するなどしながら、相手を意識した話し方を考えさせたい。

③文を書く目的と文と文との関連性を意識すること

1年時に、過去形を正しく用い『冬休みにしたこと』を5文以上で書き表すという活動を行った。実際に自分がしたことについてさらに詳しく述べる文を1～2付け足し、ある程度まとまりのある文章を書くことを目標とした。今回は、自分のおすすめを相手に気に入ってもらえるようにするために①情報をしぼる ②具体例をあげる ③その場所に対する自分の思いを述べる の3点をきちんとおさえて取り組ませたい。そうすることで文と文の関連性にも目を向けさせることができると考える。

4. 単元の指導目標

- ・ There is / are ～.構文を理解し、それらを用いて表現することができる。
- ・ 相手に伝えることを意識して書いたり、話したりすることができる。
- ・ 既習事項を活用して、伝えたい内容を書いたり、話したりすることができる。

5. 単元の指導計画 (全10時間)

時間	主な学習内容	目標	帯	重点技能
1	○助動詞を用いた文構造の理解① ・ should を用いた文	・ should の用法を理解し、表現することができる。	②	書く
2	○助動詞を用いた文構造の理解② ・ will を用いた文	・ will の用法を理解し、表現することができる。	③	書く
3	○Multi Plus 3 ・ 本文の内容理解 ・ There is / are ～.構文の理解	・ 本文を読み、内容について理解できる。 ・ 本文の内容が伝わるように、適切な音量で音読することができる。 ・ There is / are ～. を用いて表現することができる。	①	書く 読む
4	○接続詞を用いた文構造の理解① ・ when を用いた文	・ 接続詞 when の用法を理解し、表現することができる。	②	書く
5	○接続詞を用いた文構造の理解② ・ because を用いた文 ○『山梨の観光案内をしよう』 I ・ 活動の目標の理解 ・ モデルの提示	・ 接続詞 because の用法について理解し、表現することができる。 ・ 活動を理解し、目標をイメージすることができる。 ・ モデル文を読んだり、聞いたりして、活動内容を理解することができる。	③	聞く
6	○『山梨の観光案内をしよう』 II ・ Dialog づくり① ・ My leaflet づくりの説明 ※作成は授業外で進める。	・ 自分自身の経験や体験、学習してきたことを活かして、山梨県について考えることができる。 ・ 既習事項を活用し、「私のおすすめ」を書くことができる。 ・ 「私のおすすめ」を視覚化した leaflet づくりについて、作業手順を理解できる。	①	書く

7	○『山梨の観光案内をしよう』Ⅲ ・Dialog づくり②	・案内役と旅行客のやりとりをイメージして、対話文を作ることができる。	①	書く
8	○『山梨の観光案内をしよう』Ⅳ ・発表の仕方について ・Dialog 発表練習①	・Dialog 発表の際に意識することを把握できる。 ・相手を意識して読むことができる。	②	読む
9	○『山梨の観光案内をしよう』Ⅴ ・Dialog 発表練習②	・相手を意識して話すことができる。 ・お互いの良い所、課題点を指摘し合い、発表を改善することができる。	②	話す 聞く
10 (本時)	○『山梨の観光案内をしよう』Ⅵ ・Dialog 発表① ペアA…旅行客 ペアB…案内役	・My leaflet を活用して、私のおすすめを相手に伝えることができる。 ・相手を意識して話すことができる。 ・自分たちの発表について、評価することができる。 ・学習を振り返って、気づきや感想をまとめることができる。	③	話す 聞く
11	○『山梨の観光案内をしよう』Ⅵ ・Dialog 発表② ペアA…案内役 ペアB…旅行客	・My leaflet を活用して、私のおすすめを相手に伝えることができる。 ・相手を意識して話すことができる。 ・自分たちの発表について、評価することができる。 ・学習を振り返って、気づきや感想をまとめることができる。	③	話す 聞く
帯プログラム	①BINGO による語彙習得 ②Plus One Q&A による表現練習 ③Two-minute-talking			

6. 単元評価計画 ○別紙参照

7. 本時の授業

(1) 日時 平成22年10月23日(土)

(2) 場所 2年2組教室

(3) 本時の目標

- ・自分のおすすめに興味をもってもらえるよう、相手を意識して話すことができる。
(内容、視線、スピード、リーフレット活用)
- ・相手のおすすめを聞き、内容を理解することができる。

(4) 展開

指導過程	学習内容および生徒の活動	教師の指導・指示・および援助	留意点
Greeting (1分)	Good morning, Mr. Takasugi. I'm fine, thank you. And you?	Good morning, everyone. How are you? I'm fine too, thank you.	・元気に反応しているか。
Basic Skill Training 帯プログラム (6分)	【Two-minute-talking (帯プログラム)】 ・4人グループを作り、机を合わせる。 ・ペア、評価する相手、順番を確認する。 ※会話は2人で続ける。残りの2人は評価を行う。 ・初めのペアは、2分間会話を続ける。 ・評価を記入する。 ・終わったら2番目のペアも同様に行う。 ・評価を記入する。	・4人グループを作るよう指示をする。 ・活動の説明を行う。 ①トピックの確認をする。 ②活動および評価のポイントを確認する。 ・視線 ・会話を続けようとしているか。 ・コメント ・準備ができたかを確認する。 ・机間巡視をしながら観察をする。	・活動、評価のポイントが理解できているか。 ・あいづちを打ったり、質問したりして、何とか会話を続けようとしているか。

<p>Activity① (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> これから行う活動の目標と内容を理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>目標：相手を意識し、興味を持ってもらえるように山梨のおすすめについて話す。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 役割分担し、会話の練習をする。 指示をよく聞いて、会話を行う。 終わったらアドバイザーがアドバイスをする。 グループ内で役割を替えて練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒とのQ&Aなどを通して、活動の目標や内容を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 注意深く聞いているか。 教師の質問に積極的に答えられているか。 原稿を見ないで会話しているか。 リーフレットを活用しているか。
<p>Activity② (32分)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ペアAが旅行者、ペアBが案内役 会話は旅行者1人、案内役2人で行う。 旅行者はペアで行動するので、交互に発表を行う。 案内役は2人のおすすめを1つのプランとして紹介する。 プランの内容は、おすすめとその理由、それに関わる情報(交通手段、時間、費用も含む)とする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> できるだけ多くの案内所に行き、会話する。 時間になったときに行っている会話を最後にして、終わりしたい席に着く。 旅行者は2人で相談して“ベストプランナー”を決める。 案内役は自己評価をする。 “ベストプランナー”を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各班のペアAが旅行者、ペアBが案内役として活動することを確認する。 旅行者のペアは、自分のグループ以外の所に行くことを確認する。 旅行者の2人は“ベストプランナー”を相談して決め、理由も言えるようにしておくことを伝える。 ベストプランナーは内容だけではなく、案内役の発表の様子も含めて決めることを確認する。 机間巡視をしながら観察、支援をする。 時間と様子を見ながら、席に着くよう指示する。 旅行者には“ベストプランナー”とその理由をまとめさせ、案内役には自分たちの発表を自己評価させる。 旅行者役の各ペアに“ベストプランナー”はどのペアだったのか、また、その理由を尋ねる。 生徒の気づきや感想などを板書し、全体にフィードバックする。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアは前もって決めておく。 活動がスムーズに行われるよう、動き方の説明をする。 理由がしっかり答えられているか。 しっかりと発表に耳を傾けられているか。
<p>Consolidation & Greeting (1分)</p>	<p>Good bye, Mr. Takasugi. Thank you. You, too!</p>	<p>Good bye, everyone. Have a good weekend!</p>	<ul style="list-style-type: none"> 元気に素早く反応しているか。

評価規準表

主たる領域	領域記号等	学習指導要領指導事項（記号）			単元指導時数
					11
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ There is / are ～.構文を理解し、それらを用いて表現することができる。 ・ 相手に伝えることを意識して書いたり、話したりすることができる。 ・ 既習事項を活用して、伝えたい内容を書いたり、話したりすることができる。 				
使用教材	New Horizon English Course2 Multi Plus 3 わたしの町				
学習活動	I 関心・意欲・態度	II 理解	III 表現	IV 知識・理解	
【音声】 Loudness, Fluency 【文字及び符号】 特になし 【語、連語及び慣用表現】 It's famous for ～. north, south, east, west, next to, across from 【文法事項】 There is / are ～.	与えられた課題に対して、積極的に取り組むことができる。	英語を聞いたり、読んだりして、Unit の内容について理解することができる。	山梨のおすすめ観光スポットについて書くことができる。	There is / are～.構文を理解し、適切に用いることができる。	
	観察、自己評価	観察	観察、ワークシート	観察、ワークシート	
	積極的に話しかけたり、相手の話をしっかり聞いたりにできる。	山梨の観光スポット冬休みについて書かれた英文を聞き、内容をつかむことができる。	相手を意識しながら自分のおすすめについて話すことができる。	文と文の関連性を意識して文章構成できる。	
	観察、自己評価	観察	観察、自己評価	ワークシート	
A	常時Bの状態が見られる。	常時 B の状態が見られる。	山梨の観光スポットについて詳しく書くことができる。	常時 B の状態が見られる。	
	自分から積極的に声をかけ、相手の目を見て話したり、聞いたりすることができる。	常時 B の状態が見られる。	常時 B の状態が見られる。	文と文の関連性を意識して、文章の内容をより具体的に、分かりやすく構成することができる。	
B	与えられた課題に対して積極的に英語を用いて取り組むことができる。	本文の内容を理解することができる。	山梨の観光スポットについて書くことができる。	内容に応じて学習した文構造や文法事項を使うことができる。	
	相手の目を見て話したり、聞いたりすることができる。	山梨の観光スポットについて書かれた内容をつかむことができる。	適切な音量とスピードで話すことができる。	文と文の関連性を意識して、文章構成できる。	
Cの生徒への手 立て	与えられた課題に対して、仲間や教師が支援し、適切なアドバイスをする。	聞き取りや読み取りの視点を与える。	feedback をこまめに行う。	feedback をこまめに行ったり、解決のヒントを与えたりする。	
	具体的な改善の視点を与える。	聞き取りの視点を与える。	具体的な改善の視点を与える。	モデルを示し、具体的な改善の視点を与える。	